

緑の中の滞在型新中央図書館構想を!! 次は事業者支援・農業者支援の実施を!!



自由民主党西東京市議団 稲垣 裕二

新中央図書館・地域博物館

問 次期図書館計画の中でどのように議論を進め、目指すべき中央図書館はどのように考えるのか。

答 市民の情報拠点として、人の交流や憩い、癒しなども得ることができる居場所として方向性を示したい。

意見 都立東伏見公園内には、市は約8,000㎡という権利を有している。ここに新中央図書館を計画し、コーヒーチェーン店などを館内に誘致し、緑の中にある図書館でゆったりできるテラス等を備えた、滞在型図書館の検討を目指すべきである。

地域博物館についても、新中央図書館と併設するような形でこの地域に持ってくることで、様々な資料を取り揃えられ、下野谷遺跡公園や石神井川の回遊も可能となる。呼称についても「地域博物館」から市

及び地域全体を表現するために、どこかの段階で「西東京市立歴史博物館」のような呼称を早く導入すべきである。

事業者支援・農業者支援

問 今後事業者支援を行うのか。

答 実施に向け検討していく。

問 農業者支援についてはどうか。

答 意見を伺いながら検討する。



課題山積のマイナ保険証に対策を! 有害化学物質の情報提供に努めよ!



生活者ネットワーク 後藤 ゆう子

マイナンバー

問 マイナンバー関連のトラブルが連日報道されているが、本市の状況は。

答 これらの誤りは発生していないが、コンビニ交付サービスの運営をしている事業者を確認し、誤って交付されることがないように対策を講じているとの回答を得た。

問 マイナ保険証に対して介護事業者から「利用者から申請の同意を得ることも難しい」「カードや暗証番号の保管はリスクが高すぎる」など切実な声が届いている。市はどう答えるのか。

答 国の動向を注視するとともに、東京都を通じて国に対し取扱方法の明確化や医療機関等への十分な周知などについて要望していく。

意見 介護事業者の負担や悩んでいるというような声を、国等に意見を言う機会があれば届けていただきたい。

有機フッ素化合物(PFAS)

問 井戸所有者にPFASの情報提供を行ったか。

答 有機フッ素化合物の健康に対する影響についての科学的知見の集積が不十分な現時点では、情報提供は行っていない。



3・4・9号線はいつ中町に延伸するのか 学校プールの今後を全市的に検討すべき



自由民主党西東京市議団 保谷 なおみ

問 都市計画道路3・4・9号線は伏見通りまで事業化しているが、その先、中町部分はどうなるのか。

答 次期都市計画マスタープランでは幹線交通軸に設定する予定だ。

意見 幹線交通軸に設定されることで、東京都がまもなく作成する都市計画道路の次期事業化計画で、優先整備路線に位置づけられる可能性が大きくなったと認識した。中町地域では影響のある話なので、今後も動向をしっかり見守っていく。

フレイルチェック

問 フレイルチェックで、ハイリスクと抽出された方は、その後どうなるのか。

答 フォローが必要な参加者は、地域包括支援センターへつないでいる。

学校プールの今後

意見 葛飾区では、学校プールを80年使うと仮定して年234万円コストがかかると試算。プールの稼働率や水泳指導に自信がないと感じる教員への負担も考慮し、検討の末、将来的には学校のプールを廃止し、学校外に授業を移行することに決めた。西東京市においても、今後1校に1プールが当たり前という認識の見直しを求める。



感染症対策、シティプロモーション、 南芝団地のはなバス乗り入れについて



自由民主党西東京市議団 小林 たつや

問 新型コロナウイルス感染症の状況把握、発熱外来などの見解は。

答 定点医療機関当たりの患者報告数は3.96人。発熱外来は、医師会より休止の依頼があり、5月13日から休止しているが、今年度中は受診体制が確保されている。高齢者の春開始接種率は国の平均より10ポイント上回っている。

意見 医師会との信頼関係を損なうことなく、今後も感染状況と国の動向に注視し対応されたい。

問 シティプロモーションについての市の考え方を伺う。

答 いこいの森公園、多摩六都科学館、下野谷遺跡など地域資源があり、昨年末の「本当に住みやすい街大賞」では保谷が第4位になった。下野谷遺跡では「縄文から未来へ したのやから世界へ」をコンセプトにプロ

モーションに繋げたい。

意見 田無神社がロケ地になった。フィルムコミッションや市の観光課をつくり、このようなチャンスに対応し、動画配信も行うべきである。

問 南芝団地への「はなバス」乗り入れについて伺う。

答 交通不便地域との認識はないが、地域公共交通会議で検討する。

意見 早急な対応を望む。



西東京いこいの森公園

物価高騰に対し生活者、事業者へ支援を 皆が健康で長生きできる西東京市へ



立憲民主党 下田 純一

問 今年度の農業支援・物価高騰対策について伺う。

答 幅広い世代への大規模な物価高騰対策を考えており、事業者へは支援対策を検討する。

問 通勤・通学路の安全対策は。

答 注意喚起看板や電柱幕、自転車ナビマークの設置を進める。車両にはカラー舗装以外にも対策を検討。

問 ボール遊びができる広場の設置について、見解は。

答 市内に6か所ある。ボール遊びのニーズは高い。公園のリニューアルや新規整備の際に検討する。

問 市の健康診断及び病気予防は。

答 40歳から74歳までの国保加入者に特定健康診査を実施。メタボ、また予備軍と判定された方に特定保健指導及び健康ポイントアプリ「あるこ」の活用を提案している。

問 フレイル予防の取組は。

答 フレイルチェックを平成29年から令和4年度末までに199回実施し、参加者は1,984人。全国に比べ本市の参加者のリピート率は高い。

問 子ども食堂への市長の評価は。

答 地域の皆様が自主的に立ち上げ市内27か所で行われている。地域の居場所、見守りの場として子ども食堂の活動を支援していく。



健康ポイントアプリ「あるこ」

ケアラーもひきこもりも不登校も 誰一人取り残さない西東京市へ



生活者ネットワーク かとう 涼子

問 介護の困りごととして、心身の疲れやストレス、自分以外に代わりがないことを挙げる人が多い。ケアラーの休息確保、心身の健康を支え居場所につなぐ取組、緊急時の支援体制づくりの早急な具体化を。

答 介護者の生活・人生の質の向上に対する視点を持ち、次期介護保険事業計画へ効果的な取組を反映する。

問 市内でひきこもり状態の人は、約2,500人。早急な支援体制を。

答 約2,500人という数字は把握し、支援体制構築の必要性を認識している。他自治体の事例を調査・研究し、対応策について庁内で議論を重ねる。

意見 30代以降への具体的な支援メニューがない。家族支援や社会参加の場を一刻も早く検討すべきだ。

問 不登校の増加が止まらない。学校を安全で安心な楽しい学びの場に

するために、学校は何をするのか。

答 誰一人取り残さないとの決意で、つまづきや悩みの理解、個々の興味関心を踏まえたきめ細やかな指導に努める。

意見 ある保護者から「市長の言う『子どもがど真ん中』に我が子は入っていない」と大変厳しいお言葉をいただいた。このような思いを誰にもさせてはならない。

